



第15号

2015(平成27)年  
10月25日発行

発行所  
京都市下京区堀川通花屋町下ル  
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 田仲隆行

「朋友」とは、同信のなかま。  
2008(平成20)年4月の仏教壮  
年会連盟発足にあたり、仏社  
会員が力を合わせ、ともに歩  
みを進めていこうという願い  
から名づけられました。

# 「『伝灯奉告法要についての消息』を いただいて私たち仏教壮年は……」

仏教壮年会連盟講師 大原瑞雲



本年1月16日の御正忌報恩講御満座に際して、専如ご門主より「伝灯奉告法要についての消息」を頂きました。また、5月には伝灯奉告法要の修行期日(来年10月より再来年5月にわたり、10期80日80座)が決定され、さらには、本年6月から10年にわたる宗門総合振興計画も発表されました。これにより、私たちの宗門が時代の変化に対応する新たな第一歩としての歩みを踏み出す目標が掲げられました。このことを受け、親鸞聖人を宗祖と仰ぎ、お念仏申す仲間である仏教壮年として、今、私に

何ができるのか、何をせねばならぬのかを朋に考えていこうと思います。さて、専如ご門主の「法灯継承に際しての消息」にも「伝灯奉告法要についての消息」にも一貫して示されていることがいくつもあります。その中でも注目したいことが、現代という時代に即応したご法義の伝え方を、宗門の英知を結集して思考していく必要性を強く述べられている点です。そして、ご縁のある方へも、また、ご縁のなかった方々に対しても積極的にご法義を伝える必要性を示してくださっています。

今、宗門では新たなご門主を迎え、「子ども・若者ご縁づくり」(キッズサンガ)として、30年、50年先を見据えた今を大切に作る運動を展開しています。今までも、子どもや若者に対するご縁づくりは教化団体等を中心として行ってきたはいましたが、今後、宗門をあげて運動を展開することにより、すべてのお寺ですべての家庭で、地域で、子どもたちや若者へのご縁づくりを意識した動きを確実にやっていこうというものです。その一環として、宗教的生活習慣(毎朝夕お仏壇に手を合わせる。食事の言葉の励行。いただき物をまず仏さまへお供えしただく等々)の再普及、法事やお寺での行事を子どもや若者を交えることを意識したものをやっていくということなどが大切だと思われまます。私たち仏教壮年もまずこのことを積極的に実践したいものです。

さらに、ご縁を結ぶのが難しい世代といわれる、中高生や若者へのご縁づくりを「子ども・若者ご縁づくり推進室」を中心として確実に行っていこうと二つのプロジェクトを進めています。一つは、生きづらさを抱えている方の悩み、歩みに寄り添い関わりを持つことを主眼とした「思春期・若者支援について」の学びと支援活動者養成の実施です。この学びについて、シンポジウムの2回目(9月30日東京築地本願寺で行われました。二つには、高校生を対象としたご縁づくりの実践「全国高校生平和を学ぶ集いIN沖繩8/4〜6」を開催しました。高校生を対象にした初めての試みではありましたが、3日間の研修を通して参加してくれた70名の高校生全員が平和に対する学びを深め、その思いを多くの人に伝えていくという発表までも見事に成し遂げてくれました。今度は、その高校生の発表の場を教区の仏社の研修会等で設けていただき、高校生とともに平和に対する学びを深めていただきたいと思います。そして、これを機縁として、地域の中高生や若者を巻き込んだ何らかの活動を模索していただきたいと思います。

今後、お念仏のご縁に出会えた我々仏教壮年が、地道な宗教的生活習慣を実践しつつ、家庭(離郷家族)や地域で積極的に子どもや若者へのご縁づくりの環境を整えていくことが大切だと思います。

# 第1連区

## 「寺院仏壮結成に向けた研修会」報告

北海道教区理事長 宮崎英治

第1連区の寺院仏壮に向けた研修会が、2014(平成26)年12月13日、北海道教区担当にて教化センター札幌別院において、開催されました。仏教壮年会連盟講師南荘宏さんが講師となり、34名の参加がありました。

現在、北海道教区仏教壮年会連盟の登録単位数は77単位と教区内寺院の約20%に留まっており、仏壮結成50%の目標には至っていません。



長田組織拡充委員の趣旨説明をいただき、活動事例を当教区から上川南組天寧寺「真徳会」杉本巧さんから報告をいただきました。その後、講師より問題提起があり、なぜ仏壮が必要か、なぜ聞法が必要か等をテーマとし、班別討議を行いました。その際、様々な視点からの意見があり、刺激と奮起に満ちたものとなりました。この班別討議において、仏壮結成の意義やそれぞれの活動の情報共有ができました。そして、み教えから自分を見つめる仲間(朋友)と出遇うことが出来るのは、お寺での聴聞でありま

す。朋友との出遇いが、私たち一人ひとりがいのち輝く社会の第一歩です。

今回の研修会は、北海道教区内未結成寺院の参加数が非常に少ない結果となりました。

寺院仏壮結成の意義を改めて見つめ、私たち仏教壮年より住職へ、また住職から門信徒へ活動の促しを行っていただきたいと思えます。

この研修会を通して、寺院仏壮結成の意識向上に努め、あらゆる社会問題に関心をもち、念仏者として、広く伝えてゆく活動が必要であると感じました。



2015(平成27)年4月25日と5月12日に起きたネパール大地震の影響で、約9000人以上が死亡し、家屋50万戸以上の倒壊という被害をもたらした。地震直後には、カトマンズ本願寺のメンバーを中心にボランティアの方々と



対しての不信感からそのような犯罪を起こすことになった。そんな政府の状況は、人々の精神的不安を募らせた。さらに、ネパールへの海外からの支援は、マネージメントがうまくいかず、多くの物資が空港に残されることとなった。食料は腐敗し、医療器具は清潔な場所に保管されることなく、使えなくなった。ま

たそれらの腐敗物の処理にも問題が起きた。7月の状況では雨期に入り雨の影響でカトマンズ市外の村では、山崩れが起こり、道や建物も倒壊した。その影響によりカトマンズから離れた村では、多数の犠牲者が出ている。そのため、カトマンズ市内に避難してくる人々もいる。

現在の復興活動において、カトマンズ本願寺の活動は、



合同で食料の配給を行った。その活動を行うにあたって現場で起きた問題は、一人ひとり平等に食料をいきわたらせる状況をつくるのが困難であったことである。また、その配給場所に行く道中では、食料を求めて人々が盗難をするということが起こった。その理由としては、地震が起きる前からネパールの政府が不安定な状況下であり、人々は政府に

### ネパール大地震の現状



龍谷大学 文学部  
ネパールからの留学生  
ウマ・ラマ・ギシン



としても活用できるからである。その学校はカトマンズ市内から、約65kmの場所にあり、道の倒壊によって再建のための機材を運ぶことはとても難しい状況にあった。学校があるHaibung-8 gan, Sindhupalchok という村は、約90%の建物が倒壊していたのである。そのため、多くの人が家をなくし、直ちに宿泊所となる学校の再建が求められた。しかし、雨期

は現地向かい活動している。これからの復興活動において、雨期の被害で家をなくした人々を、カトマンズ本願寺のメンバーが中心となり受け入れるという対策が必要である。

現在、日本のメディアでネパールの情報は、あまり流れていないが、実際に余震はまだ続いている。それにより、人々はまだ精神的にも不安な状況にある。地震を含めた自然災害は、予期せず起こるため、その際カトマンズ本願寺が人々に寄り添い、どのように関わっていくかが今後の問題となっている。

# 被災地はいま

## 東日本大震災を忘れない

東北教区 相馬組 光慶寺住職 白江順昭

あの日から4年半が過ぎました。あの日は、被災地では2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災を指します。

岩手・宮城・福島の大震災三県では、復興再生に向けて作業が進められています。今なお震災のツメ跡が生々しく残っています。

現在でも多くの人が仮設住宅等での過酷な生活を余儀なくされ、ストレスや持病の悪化などによる災害関連死者が増え続けています。

特に東京電力福島第一原子力発電所事故の影響は重大です。避難指示地域を含む福島県では、震災による直接死より関連死者数がかかるかに上回り、中には絶望感等からくる自死者も含まれ深刻な問題となっています。

被災者が心身に負ったキズの大きさや深さは、たとえ倒壊家屋の撤去や震災廃棄物の搬出で痕跡が見えなくなっても、決して癒えるものではないことを示しています。宗門では、2012(平成24)年

2月に福島市に福島県復興支援事務所を開設しました。原発事故で避難している相馬組を支援するためです。相馬組は10ヶ寺で構成されていますが、そのうち7ヶ寺が避難指

示区域の中にあり、今も住職・寺族・門信徒が帰還できずにいます。事務所の広間にはお内仏が安置され、毎月法話会が行われ、法要や会合等にも利用されるなど寺院活動の支えとなっています。

またその間、全国から教区や組を中心とする団体、宗門校、個人等が訪れました。現地を視察し現実を直視することで、被災地との交流会や聞法の集い等がもたれ、支援とご縁の輪が広がっています。今年3月には常盤自動車道が全線開通し、多くの方々が相馬に足を運ぶようになりました。有り難いことです。

毎年あの日が近づくと、メディアは大きく取り上げ報道しますが、そんな報道が去った後も、被災者は不自由な避難生活を過ごしていることをどうぞ忘れないでください。



常盤自動車道(避難指示区域内)の「放射線量」表示板 (平成27年8月 南相馬市内)



手前=災害廃棄物仮置場 奥(写真上)=沿岸部高上げ工事 (平成27年8月 南相馬市小高区(20km圏内))



災害廃棄物 搬出作業 (平成27年8月 光慶寺境内)

### 【仏教壮年会連盟会員式章入れ】

- 価格 **2,000円**(税別)
- 本願寺出版社にて販売
- 問い合わせは、本願寺出版社へ (フリーダイヤル **0120-464-583**)



熊本	熊本	大分	福岡	福岡	福岡	福岡	山口	山口	山口	安芸	備後	備後	備後	奈良	京都	富山	長野	長野	教区
益北	八代	岡	那珂	那珂	東筑	東筑	大津西	大津西	須佐	深川	鴨川北	比婆	芦田	添下	城南	富山	山地	山地	組
秀学寺	教覚寺	安照寺	寂静寺	一心寺	宝福寺	明泉寺	浄念寺	法泉寺	光讚寺	正現寺	寶泉寺	浄蓮寺	慶照寺	圓覚寺	圓覚寺	満徳寺	明専寺	真光寺	寺号
秀学寺	教覚寺	安照寺	寂静寺	一心寺	宝福寺	明泉寺	浄念寺	法泉寺	光讚寺	正現寺	寶泉寺	浄蓮寺	慶照寺	山吹壮年会	添下組	満徳寺	明専寺	真光寺	单位名称

### ◆本年度新規単位登録名簿

2015(平成27)年9月30日現在